

2022 度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本会計大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。このような理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のウェブサイト¹で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート実施報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。2020年1月頃から続くCOVID-19の流行に伴い、引き続き今学期も多くの科目でオンライン講義形態での実施となった。状況の変化には柔軟に対応しながらも、本アンケートの結果を踏まえて、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

2020年度からはビジネスアカウンティングコースを設置し、カリキュラムの体系も見直している。このような改善を継続し、その効果を確認するため、アンケートの結果を活かしたいと考えている。

2022年8月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 1）

2022年7月19日（火）～8月5日（金）にメーリングリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外全ての科目を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。アンケートの回答は無記名とし、1学生につき各科目において1回限りとした。

本報告書では、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上のプロジェクト調査・研究以外全ての開講科目である22科目について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると表1のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数479名に対して224名から回答を得た。アンケートの回答率は46.8%である。オンラインでの任意回答として実施された直近3回の回答率（2020年度後期（46.1%）2021年度前期（56.1%），2021年度後期（52.8%））や他専攻、他部局の動向を考慮すると、今回の回答率は低い水準ではなく、一定の水準を確保しているものと考えられる。

授業科目名	履修者数	回収数
財務会計1	37	30
財務会計3	14	10
簿記1	30	20
簿記3	17	17
公会計2	32	18
I F R S 2	10	6
管理会計2	14	4
原価計算1	64	10
監査1	34	10
監査3	28	9
監査計画の編成法2	19	9
事例研究（監査制度）	18	9
ミクロ経済学	6	3
経営管理	17	1
金融行政I	17	10
企業法2	15	3
法人税法1	20	7
所得税法	12	4
企業開示制度と実務	8	3
会計職業倫理	42	17
ビジネス・コミュニケーション1	13	12
ビジネス・コミュニケーション2	12	12
合計	479	224

表1：アンケート実施科目と回収数

3.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、評価が好ましい回答ほど値が大きくなるよう設定されているため（設問1属性，設問17入学前を除く），この数値に基づく回答の平均値，中央値，最頻値の算出を行った．あわせて，参考のため標準偏差も計算した．その結果は以下の通りである．なお，具体的なアンケートの内容については資料2を参照されたい．

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格	入学前
6	77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	92	210	1	1	9	110	151	171	157	151	165	154	157	130	164	57	32
4	14	12	5	2	10	83	55	45	55	54	50	51	57	46	40	-	98
3	33	1	10	9	18	27	16	6	9	14	6	17	7	29	17	131	49
2	0	1	27	30	33	3	1	2	2	2	1	2	3	9	2	-	42
1	6	0	72	96	78	1	1	0	1	3	2	0	0	10	1	36	3
0	2	-	109	86	76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224
平均値	4.83	4.92	0.81	0.88	1.26	4.33	4.58	4.72	4.63	4.55	4.67	4.59	4.64	4.24	4.63	3.19	3.51
中央値	5	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4
最頻値	5	5	0	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4
標準偏差	1.27	0.33	1.01	0.90	1.34	0.77	0.68	0.56	0.65	0.77	0.64	0.67	0.61	1.10	0.70	1.27	1.00

表2：アンケートの基本統計量

表2を見ると，設問3（予習），設問4（復習），設問5（宿題），設問16（資格），設問17（入学前）以外の設問では，平均値が概ね5であり，中央値や最頻値も4以上である．この傾向は，過去数年のアンケート結果と大きな違いはなく，2020年度に引き続きオンライン講義が主体となった今学期の状況を踏まえても，講義に対する評価は良好であったといえる．

ただし，学生が授業の予習，復習，宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている．設問3（予習），設問4（復習），設問5（宿題）では回答した学生のうちの半数以上が選択肢0または1であり，科目別での毎回の講義の予習・復習・宿題にかかる時間は，それぞれ2時間以下であることがわかる．オンライン講義となった直近においても対面であった過年度と同様の傾向であり，継続的にこの課題の原因と対処する方法を検討する必要がある．なお，設問1（属性）にあるように公認会計士コースの学生が多く，設問14（試験対策）からわかるとおりに本学の講義は資格試験等と関連する内容も含むため，学生が別途取り組んでいる試験対策の学習とも重なる部分があることから，一概に学生の学習時間が不足しているとは解釈しにくい．とはいえ，会計大学院が提供する講義内容は試験対策に限らないことから，理解には一定の学習時間が必要と考えられる．

全体として，学生からの各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの，予習・復習・宿題にかかる時間を一定時間確保するように授業設計を工夫する必要があると考えられる．

3.3. 各設問間の相関

設問間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、設問1は受講者属性を表すため相関係数の意味が乏しいため除外している。また、±0.50以上の相関係数については太字（色付き）にしている。設問16の資格については、より難易度の高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

質問	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	試験対策	キャリア	資格
2 出席	1.00														
3 予習	0.08	1.00													
4 復習	0.10	0.46	1.00												
5 宿題	0.08	0.19	0.12	1.00											
6 理解	0.17	0.06	0.09	-0.08	1.00										
7 難易度	0.06	-0.01	0.06	-0.15	0.59	1.00									
8 教員準備	0.03	0.02	-0.06	-0.04	0.41	0.54	1.00								
9 プレゼン	0.06	0.08	0.06	0.05	0.49	0.52	0.69	1.00							
10 教材	0.06	0.10	0.07	0.02	0.57	0.66	0.66	0.66	1.00						
11 評価方法	0.12	0.12	0.04	0.12	0.48	0.56	0.52	0.51	0.63	1.00					
12 シラバス	0.08	0.12	0.00	0.12	0.53	0.57	0.55	0.56	0.66	0.65	1.00				
13 教員評価	0.07	0.03	0.00	0.05	0.53	0.61	0.73	0.75	0.76	0.74	0.71	1.00			
14 試験対策	0.07	0.07	0.17	-0.07	0.35	0.49	0.22	0.23	0.34	0.34	0.32	0.33	1.00		
15 キャリア	0.17	0.08	0.07	0.10	0.46	0.57	0.40	0.49	0.54	0.66	0.59	0.61	0.42	1.00	
16 資格	-0.16	-0.22	-0.14	-0.10	0.05	0.00	-0.03	-0.03	0.01	-0.05	-0.03	0.03	0.08	0.00	1.00

表3：設問間の相関関係

各設問は、概ね、学習時間に関する項目（設問3～5）、授業評価に関する項目（設問6～13）、学生の将来につながる授業かどうかに関する項目（設問14, 15）に分けることができる。

まず、学生の学習時間に関する項目である予習（設問3）、復習（設問4）、宿題（設問5）に注目する。過年度よりもやや弱いものの、予習（設問3）と復習（設問4）の間では比較的高い正の相関が見られ、予習をよく行う学生は復習もよく行うことを示している。なお、学習時間（設問3～5）と授業評価（設問6～13）との相関は全体的に高くない。そのため、学習時間が短いことで難易度、理解水準、将来に対する有用性が低下しているような傾向は見られない。

次に、授業評価に関連した、理解（設問6）、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、プレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、教員評価（設問13）に着目する。これらは、それぞれ互いに高い正の相関関係がある。適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼン・教材の設定、高い教員評価は、それぞれが密接に関係し、相乗的な効果を持つものと理解できる。

続いて、試験対策（設問14）とキャリア（設問15）を通じた将来の進路に関する有用性という特徴に着目する。全体として、試験対策（設問14）よりもキャリア（設問15）の方が、授業評価に関する回答（設問7～13）との関係が強い。本学では、学術研究の動向や会計実務に基づく知識、倫理や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的な視点で学生の将来に有用となる講義を開講している。将来のキャリアに役立つ授業であるほど授業評価も高いことから、そのような内容の重要性が高まっていることが読み取れる。最後に資格（設問16）については、強い相関は観察されない。表2より、授業評価は極めて高いことから、入学時の習熟度にかかわらず、理解度も評価も高いことが示されており、様々なコースや習熟度の学生に応じた授業を提供できていることが示唆されている。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院 WEB サイトを参照されたい (<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>)。

3.4. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、考慮すべき意見については改善につなげるよう依頼している。

また、今回より担当科目の授業アンケートの結果に対するリプライを各教員に依頼している。授業アンケートを通じて教員が得たフィードバックを執筆することで、授業アンケートの結果がさらに授業に活かされることを期待している。

4. 結び

2022年度前期における「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果を踏まえると、本会計大学院の授業は、総合して良好な評価を得たと考えられる。本会計大学院が抱える課題については、例年同様に学生の学習時間の確保が挙げられる。各科目の毎回の講義の学習時間は、多くの学生が予習・復習・宿題のそれぞれに2時間以下ずつとなっている。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫する必要があると考える。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

資料 1 : 2022 年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果を報告書として公表致します。東北大 ID が必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答	
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6) 公認会計士コース（2年） (5) 公認会計士コース（1年） (4) 会計リサーチコース (3) ビジネスアカウンティングコース	(2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい。）	(5) 90% 以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20% 未満
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。）	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。）	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5 時間以上 (4) 4-5 時間 (3) 3-4 時間 (2) 2-3 時間 (1) 1-2 時間 (0) 1 時間未満
6	この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である

番号	質問	回答
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
11	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
12	この授業のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し
17	会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。	(5) 東北大学経済学部 (4) 東北大学の経済学部以外に所属、あるいは他大学に所属 (3) 社会人として勤務 (2) 留学生 (1) その他

番号	質問	回答
18	自由記入欄（授業の感想，担当教員への要望，また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を自由に記入して下さい。）	（自由記述）

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

※今年度のアンケートは Google Form で実施しています。表示形式は異なりますが，設問・選択肢は記載の通りです。

資料2：2022年度前期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	(6) 公認会計士コース(2年)	77	34.38%	設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	(5) 十分	157	70.09%
	(5) 公認会計士コース(1年)	92	41.07%		(4) ほぼ十分	55	24.55%
	(4) 会計リサーチコース	14	6.25%		(3) どちらともいえない	9	4.02%
	(3) ビジネスアカウンティングコース	33	14.73%		(2) やや不十分	2	0.89%
	(2) 経済経営学専攻	0	0.00%		(1) 不十分	1	0.45%
	(1) 経済学部	6	2.68%		合計	224	100.00%
	(0) その他	2	0.89%				
	合計	224	100.00%	設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	(5) 適切	151	67.41%
設問2 この授業にどのくらい出席しましたか。	(5) 90%以上	210	93.75%		(4) ほぼ適切	54	24.11%
	(4) 89-70%	12	5.36%		(3) どちらともいえない	14	6.25%
	(3) 69-50%	1	0.45%		(2) やや不適切	2	0.89%
	(2) 49-20%	1	0.45%	(1) 不適切	3	1.34%	
	(1) 20%未満	0	0.00%	合計	224	100.00%	
	合計	224	100.00%	設問11 この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか。	(5) 適切	165	73.66%
設問3 この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(5) 5時間以上	1	0.45%		(4) ほぼ適切	50	22.32%
	(4) 4-5時間	5	2.23%		(3) どちらともいえない	6	2.68%
	(3) 3-4時間	10	4.46%		(2) やや不適切	1	0.45%
	(2) 2-3時間	27	12.05%	(1) 不適切	2	0.89%	
	(1) 1-2時間	72	32.14%	合計	224	100.00%	
(0) 1時間未満	109	48.66%					
	合計	224	100.00%	設問12 この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか。	(5) 役に立った	154	68.75%
設問4 この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(5) 5時間以上	1	0.45%		(4) まあまあ役に立った	51	22.77%
	(4) 4-5時間	2	0.89%		(3) どちらともいえない	17	7.59%
	(3) 3-4時間	9	4.02%		(2) あまり役に立たなかった	2	0.89%
	(2) 2-3時間	30	13.39%	(1) 役に立たなかった	0	0.00%	
	(1) 1-2時間	96	42.86%	合計	224	100.00%	
(0) 1時間未満	86	38.39%					
	合計	224	100.00%	設問13 総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	(5) 評価できる	157	70.09%
設問5 この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(5) 5時間以上	9	4.02%		(4) まあまあ評価できる	57	25.45%
	(4) 4-5時間	10	4.46%		(3) どちらともいえない	7	3.13%
	(3) 3-4時間	18	8.04%		(2) あまり評価できない	3	1.34%
	(2) 2-3時間	33	14.73%	(1) 評価できない	0	0.00%	
	(1) 1-2時間	78	34.82%	合計	224	100.00%	
(0) 1時間未満	76	33.93%					
	合計	224	100.00%	設問14 この授業は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。	(5) 役立つ	130	58.04%
設問6 この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか。	(5) 理解できた	110	49.11%		(4) まあまあ役に立つ	46	20.54%
	(4) ほぼ理解できた	83	37.05%		(3) どちらともいえない	29	12.95%
	(3) どちらともいえない	27	12.05%		(2) あまり役に立たない	9	4.02%
	(2) あまり理解できなかった	3	1.34%	(1) 役に立たない	10	4.46%	
	(1) 理解できなかった	1	0.45%	合計	224	100.00%	
	合計	224	100.00%				
設問7 この授業の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	(5) 適切	151	67.41%	設問15 この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	(5) 役立つ	164	73.21%
	(4) ほぼ適切	55	24.55%		(4) まあまあ役に立つ	40	17.86%
	(3) どちらともいえない	16	7.14%		(3) どちらともいえない	17	7.59%
	(2) やや不適切	1	0.45%		(2) あまり役に立たない	2	0.89%
	(1) 不適切	1	0.45%	(1) 役に立たない	1	0.45%	
	合計	224	100.00%	合計	224	100.00%	
設問8 教員のこの授業に対する準備は十分でしたか。	(5) 十分	171	76.34%	設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級	57	25.45%
	(4) ほぼ十分	45	20.09%		(3) 日商簿記2級	131	58.48%
	(3) どちらともいえない	6	2.68%		(1) 上記についてなし	36	16.07%
	(2) やや不十分	2	0.89%		合計	224	100.00%
	(1) 不十分	0	0.00%				
	合計	224	100.00%	設問17 会計大学院に入る前の所属について、適切なものにチェックしてください。	(5) 東北大学経済学部 に所属	32	14.29%
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	(5) 十分	171	76.34%		(4) 東北大学の経済学部以外 に所属、あるいは他大学に 所属	98	43.75%
	(4) ほぼ十分	45	20.09%		(3) 社会人として勤務	49	21.88%
	(3) どちらともいえない	6	2.68%		(2) 留学生	42	18.75%
	(2) やや不十分	2	0.89%		(1) その他	3	1.34%
	(1) 不十分	0	0.00%	合計	224	100.00%	
	合計	224	100.00%				

「注」設問の文言は本来のものと若干異なります。

2022 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	吉永 裕登
委員	木村 史彦

会計大学院アンケート実施報告書 2022 年度前期

2022 年 8 月発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会